

# わたしたちの図書館基本構想

竹田市新図書館建設基本構想

平成26年 5月

竹田市教育委員会

# わたしたちの図書館基本構想

## 竹田市新図書館建設基本構想

- 1-1 竹田市環境、くらし、まちづくり
  - ① 都市のかたち
  - ② 人口と市域分布
  - ③ 都市計画/中心部まちづくり
- 1-2 竹田市の図書館サービスのいま
  - ① 竹田図書館100年の歴史と活動のいま
  - ② 久住・直入・荻の 公民館図書室のいま
  - ③ 小・中学校図書館への取り組みと成果
  - ④ 図書館を応援する市民活動の取り組み
  - ⑤ 利用統計と図書館サービス評価
  - ⑥ 市民の期待、新しい図書館構想への意見
- 1-3 これまでの図書館サービスとその課題
  - ① 日本の図書館サービスの現在
  - ② 竹田市図書館サービスの現状と課題

### 第1章 竹田市の 図書館の いま

- 2-1 竹田市のめざす図書館サービス
  - ① 図書館の役割
  - ② 図書館サービスのめざすもの
- 2-2 図書館サービスの組み立て
  - ① 図書館サービスの組み立て
  - ② 竹田市をおおう図書館サービス網
- 2-3 図書館サービス網への5つの施策アイデア
  - ① BM自動車図書館サービス網の整備
  - ② 小・中学校図書館への取り組みと支援方策
  - ③ 久住・直入・荻の 公民館図書室拠点の整備
  - ④ まちなかの本棚、観光情報センターとの連携
  - ⑤ サービスシステムの源泉、新中心図書館の整備
- 2-4 図書館の設置と運営の基本、
- 2-5 図書館サービスの到達指標と経費

### 第2章 竹田市の 図書館の めざすもの

- 3-1 中心図書館の機能とサービス
- 3-2 管理と運営
- 3-3 資料収集と組織化(構造化)
- 3-4 図書館組織と職員構成
- 3-5 図書館建築計画の方針
  - ① 図書館建築計画の方針
  - ② 諸機能とその配置の方針
  - ③ 諸機能とその規模/面積の方針(計画表)
- 3-6 まちづくりと図書館施設の配置
  - ① 新図書館敷地と施設群の配置構成
  - ② 歴史資料館と新図書館の役割分担
  - ③ 城下町まちづくりと新図書館
- 3-7 事業イメージの検討
  - ① 建設や開館のための事業費試算
  - ② 開館までの準備とスケジュール

### 第3章 竹田市 中心図書館 の計画

# わたしたちの図書館基本構想

## 竹田市新図書館建設基本構想

資料1：城下町再生プロジェクト図書館部会 協議の記録  
・委員構成・会議構成  
・6回の会議記録  
・参考提示資料目録

資料2：行政／類縁機関／市民グループ ヒアリング記録  
・総合まちづくりセンター  
・教育委員会総務課  
・環境衛生課  
・図書館  
・公民館3館  
・歴史資料館  
・文化財課  
・小学校2校  
・新竹田市立図書館を考える会

図書館部会  
会議録と  
ヒアリング記録

資料3：これまでの図書館建設の経緯と基本構想の進め方  
・基本構想の進め方  
・これまでの図書館建設の経緯  
・基本構想への提案

資料4：図書館のめざすもの、先進的資料に学ぶ  
・図書館のめざすもの：(社)日本図書館協会  
・豊の国・図書館づくりマニュアル  
：大分県教育委員会 編集

資料5：図書館の設置及び運営上の望ましい基準(文科省)に学ぶ  
・教育基本法 図書館根拠法からの抜粋  
・文部科学省(改訂)設置及び運営上の望ましい基準

資料6：参考とする先進図書館とBMサービスの調査資料  
・苅田町立図書館  
・伊万里市民図書館  
・諫早市たらみ図書館  
・津久見市民図書館  
・豊後高田市立図書館

追加  
参考資料編

わたしたちの図書館基本構想 の要約

- 0-1 竹田市のまちづくりと図書館・図書館のいま
- 0-2 竹田市の図書館サービスのめざすもの
- 0-3 竹田市図書館サービス網と5つのアイデア
- 0-4 竹田市の新中心図書館の役割とかたち

基本構想概要版

竹田市の  
図書館像(別冊)

# わたしたちの図書館基本構想 [概要版]

## 竹田市の図書館の将来像をこのように構想しました。

市民なら、だれでも、どこに住んでいても、いつでも、どんな資料でも利用できる。まさに図書館があるという将来像をそう考えて構想しました。

研究と議論の下敷きには「文部科学省 図書館の設置及び運営上の望ましい基準」を使い、①竹田の図書館のいま、②図書館サービス網の計画、③センターとしての新中央図書館、という3段階で基本構想を作りました。

すべての竹田市民の暮らしが、地域社会のインフラとしての図書館に支えられて、市民生活と故郷竹田市の双方が豊かに成長してゆく。そうした将来像につながる、社会システムとしての図書館像を議論し構想しました。そして、2つの視点を、基本構想づくりを貫く考え方の原則と致しました。

### 「全ての市民のための図書館を」 「まちに図書館があるということ」

竹田市の全域を一体的にとらえたまちづくりを進めていくために、図書館政策をどう構想してゆくか。市民の暮らしと地域社会を支える専門性、市民性、広場性、地域性、を持つ本物の図書館をどう始めるか。

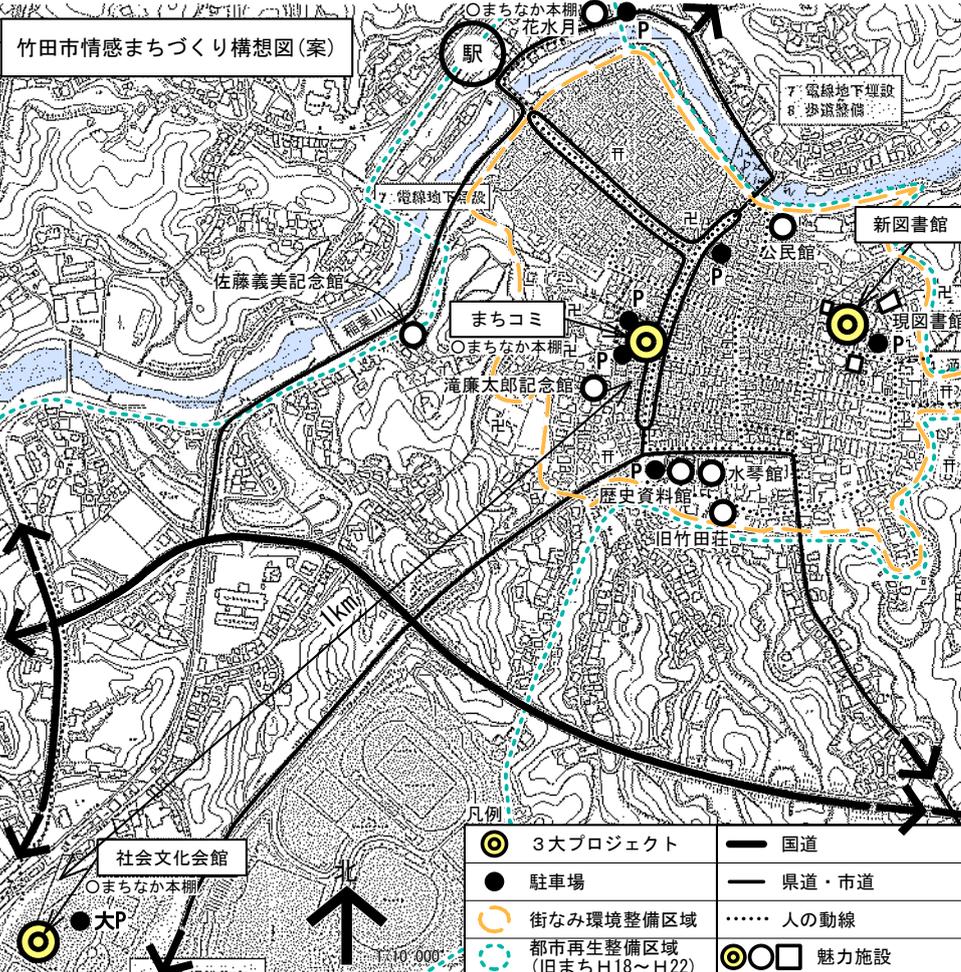
## 竹田市全域のまちづくりと似ている「図書館政策のかたち」です。

1市3町が合併した竹田市全体の将来像については、2013年3月に「竹田市都市計画マスタープラン」が策定され、広域の市域を、城下町都市拠点地区、5つの地域拠点地区、10の近隣生活拠点地区によるツリー型都市構造として、都市経営の改革が図られています。また並行して「竹田市新生ビジョン」では、政策を総合化と地域性の視点から再構築して市民に提示し、城下町再生と中心部の求心力の強化(中心市街地活性化)をリーディングプロジェクトで進めます。

図書館、まちコミ、文化会館の施設更新と魅力的な新しい活動と場の創造が、これまでの上位計画の理念の下、具体化の為に構想づくり部会が開かれました。図書館はもとより一軒の無料貸本屋ではなく社会システムです。全ての市民の暮らしに関わるサービスをめざしますから、市の都市の課題を共有しています。

広く薄く分散した居住や農業中心の就業のかたち、高齢化の進行、公共交通の劣化、中心地の駐車場不足など、都市計画で指摘された課題は、図書館にも行政サービスの投資と効果の視点から、克服すべき同じ課題となっています。この構想では、欧米に学び国が例示する集中と選択の方針を施策案としました。

## 中心市街地のまちづくりのなかでも、魅力ある拠点として輝きます。



## 中心地において市民とつながる図書館

効率的でコンパクトな行政サービスの形は、市民の暮らしの形と馴染む必要があります。生活に対応したサービスの形に取組みます。また、中心市街地のセンター機能と、郊外に分散する市民の暮らしとのつながりに、(ひと、資料、情報の対応に)不十分があれば、図書館は存在を否定され、共感を失います。市民と向き合うサービスで接点を造ります。地域拠点の図書分室、近隣生活拠点の学校や幼稚園、病院や店舗にBMが出かけ、少数精鋭の図書館員が利用者につながります。これを支えるセンターの機能を整備します。

由学館以来の伝統を持ち、百年の歴史を数える現図書館の隣地に、新しい中心図書館が生まれます。市民の記憶の竹田市図書館につながります。竹田らしさの象徴である岡藩以来の竹田資料も、歴史資料館と協働連携して、守り、開示し、利用に供します。

最も多くの徒歩や自転車の利用圏域を持ち、市民や観光来街者の来館に直接サービスを提供します。あらゆる資料情報や、活動やくつろぎの場を提供し、歩いて廻る城下町の奥にあって、回遊性を高め賑わいを広げます。城下町に点在する他の情報拠点とも連携して、竹田の魅力が街なかにつながるエコミュージアムの一隅を受け持ちます。郊外からの利用者や若い家族利用のために駐車場を、順次街なかで強化してゆきます。

## 竹田市の図書館のいま、を新図書館基本構想の始めに学んで、その課題を考えました。

### ○ 竹田市立図書館の100年の歴史は誇らしいものでした。

竹田の図書館は、先人たち個人の篤志ではぐくまれてきました。明治42年直入のひとの寄贈で竹田文庫が生まれ、東京に後援会ができて本を寄贈しています。昭和21年にも寄贈を基に竹田町立図書館に、創立50年に中川家資料寄贈、二年後に大野氏の多大な寄贈で現施設ができます。そして施設に手を入れて図書館が続けられました。近年では、年間資料費の6割相当の費用を、10年間援助し続ける篤志家もおられます。竹田には過去にも現在にも、学ぶ場を地域で支えようという由学館の志が個人に受け継がれています。

### ○ 竹田の古資料は豊かですが、利用のための新鮮な資料群は不十分でした。

岡藩以来の漢籍や和書、旧家の文書1万点は目録化と整理が完了して、折々の研究者の利用に対応できています。児童書の収集は司書の力量と市民の支援が幸いして良質な資料群17500冊が構築されていますが、資料費の制約で副本整備がありません。新装して多くの利用に対応できません。成人開架の資料は39000冊弱ですが、年間新着が全体で2380冊ずつですから20年近くかけた蔵書です。利用者に魅力を感じさせる効力不足です。それでも書架妻側のアイストップの展示など工夫して、資料群を華やかに見せています。

### ○ 篤志家に寄贈された自慢の竹田図書館は53年の風雪に耐えていました。

1960年に新築なった現在の図書館の施設は、資料の増加と多世代の利用に対応しようと増築もしましたが、面積の不足や新しい構造基準に届かず、バリアフリーや省エネなど課題を抱えてこのたびの建設構想となりました。竹田古資料を保存する裏手の書庫にも、老朽化と2階床の強度の課題があります。明治以前の資料に責任をもつ歴史資料館では、すぐに全てを引き受ける人と書庫の対応が難しく、図書館との協力で市民に応えようと話し合っています。コンパクトな新図書館が果たすべき計画条件の整理が求められます。

### ○ 合併後の公民館図書室、学校図書室、全域図書館サービスを調べました。

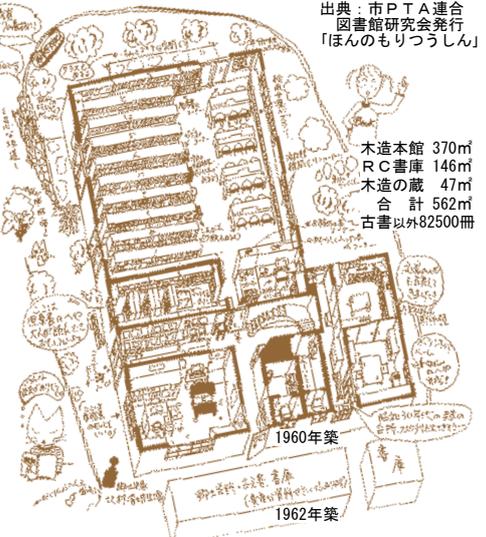
荻の新駅舎に併設され商工会が受託運営する図書室は、年間7500冊の利用があります。資料の少なさを補えば、職員も居て利用が増えそうです。久住と直入の公民館図書室は、新しい資料が無く、職員が不在で1000冊程度ですが、日常に市民を集める求心力が弱く、市民にサービスがとどく新しい方策も必要です。竹田の小中学校の図書室利用は実績を上げています。学校司書と資料費の配備策がその原因です。図書館は、運営する職員を方策と資料でこれまで以上に支援する必要があります。その体制づくりが必要です。



いまの図書館 53年の親しんだ風景



いまの図書館 手作りの開架室



出典：市PTA連合  
図書館研究会発行  
「ほんのもりつつしん」

木造本館 370㎡  
RC書庫 146㎡  
木造の蔵 47㎡  
合計 562㎡  
古書以外82500冊



理想的な南部小学校図書室



応援したい城原小学校図書室

市民に愛される図書館のイラスト



明るい荻の駅前図書室



奥まった直入公民館図書室



静かな久住公民館図書室

### ○ 利用成果・図書館のサービス実績を知り、先進事例とも比べて、いまの図書館サービスの課題を考えました。

全ての市民に届かない現状が施策投資の縮小を導く、負のスパイラルのなかに竹田の図書館サービスがあることに気づきます。

<p>①市民1人あたりの年間貸出冊数(貸出率)</p> $\frac{\text{貸出冊数}}{\text{人口}} = \frac{60,517(\text{冊})}{24,392(\text{人})} \left[ \frac{56,968(\text{冊})}{24,392(\text{人})} \right] = 2.48\text{冊} \left[ \text{市内} [2.34\text{冊}] \right]$	<p>②登録率</p> $\frac{\text{登録者数}}{\text{人口}} = \frac{3,998(\text{人})}{24,392(\text{人})} \left[ \frac{3,560(\text{人})}{24,392(\text{人})} \right] = 0.16 \rightarrow 16\% \left[ \text{市内} [15\%] \right]$ <p>人口は平成25年3月31日現在</p>	<p>③登録者1人あたりの貸出冊数(実質貸出密度)</p> $\frac{\text{貸出冊数}}{\text{登録者数}} = \frac{60,517(\text{冊})}{3,998(\text{人})} \left[ \frac{56,968(\text{冊})}{3,560(\text{人})} \right] = 15.14\text{冊} \left[ \text{市内} [16.00\text{冊}] \right]$
<p>④市民1人あたりの資料費</p> $\frac{\text{資料購入費}}{\text{人口}} = \frac{2,600,000(\text{円})}{24,392(\text{人})} = 106.59\text{円}$	<p>⑤市民1人あたりの蔵書冊数</p> $\frac{\text{蔵書冊数}}{\text{人口}} = \frac{83,827(\text{冊})}{24,392(\text{人})} = 3.44\text{冊}$	<p>⑥蔵書回転率</p> $\frac{\text{貸出冊数}}{\text{蔵書冊数}} = \frac{60,517(\text{冊})}{83,827(\text{冊})} = 0.72\text{回}$
<p>⑦1日あたりの平均貸出者数</p> $\frac{\text{貸出者数}}{\text{開館日数}} = \frac{12,289(\text{人})}{292(\text{日})} = 42.09\text{人/日}$	<p>⑧1日あたりの平均貸出冊数</p> $\frac{\text{貸出冊数}}{\text{開館日数}} = \frac{60,517(\text{冊})}{292(\text{日})} = 207.25\text{冊/日}$	<p>⑨市民1人あたりの図書館運営費(資料費/光熱費/人件費等)</p> $\frac{\text{運営事業費}}{\text{人口}} = \frac{15,000,000(\text{円})}{24,392(\text{人})} = 614.95\text{円/人}$

## 新しい「図書館サービスのめざすもの」について学び、目標としました。

市民に向けて竹田市の図書館がめざす、右の「3つの基本理念」を図書館の役割と考えます。そして新しい図書館サービスをふまえて、6つの「図書館サービスのめざすもの」にまとめ、目標としました。

- ① 竹田の市民の、毎日の暮らしと学びに役立つ図書館
- ② 竹田の新しい時代をつくる、情報の窓となる図書館
- ③ 市民が出会い竹田の文化をつくりだす、広場図書館

### 1. 竹田の子どもたちが本と出会う環境をつくりまします。

幼児の頃から本に親しむ習慣を身につける読書環境が得られれば、本とのつきあいは生涯に続きます。それを支えるのが図書館です。竹田市の図書館は「子どもたちが本に出会う環境をつくる」ことを第一に考えます。ブックスタートでは読み聞かせのコツや絵本のリストなど、大人のための資料を用意します。児童に対しては、こどもの本の知識があり情熱のある司書がしっかりと選書します。市内のボランティアや子育てグループとも協力して、こどもの読書の発展に努めます。



ティーンズのためのたまり場

ティーンズたちへは勉強、読書、音楽鑑賞、友人とおしゃべりなど、質の良い「たまり場」を提供します。学校や学校図書館との連携には教科の授業に必要なメディアを、教師や児童へ提供します。

### 3. 竹田市民の知恵袋として豊富な資料と情報を集めます。

図書館は多くの資料や情報を収集し、新鮮でいつでも役立つよう維持します。そのために図書館員は地域に関する知識を豊富に持つことが大切です。例えば地域資料や行政資料をつたえるために歴史資料館やまちづくりの人材と協働し、資料観を研鑽します。歴史的資料や市の内外で作られる資料や行政資料は、市の施策を考えるためにも利用されます。個人の生涯の学びを支えるための多様な資料の蓄積は、市民や市外への情報発信にも役立ちます。



魅力的な開架室の資料世界

ICT環境を活用しグローバルに情報を入手できる環境作りも図書館に必要です。また紙と印刷による情報媒体以外に、絵画などの現物資料やCD・DVDなど電子媒体の収集と提供などマルチメディアにも対応をします。

### 5. 竹田市民の学びや創造する活動をたすけます。

市民は、いつでも、自分の必要とする資料や情報に出会えます。図書館は、個人の生涯学習を支える基本的かつ重要な施設であり、資料と場の提供によって援助します。また自発的に市民が集まって話を聴く、一冊の本を読み合う、共通のテーマで学び合うなど集団の学びも行われます。市民自身の手によってプログラムが作られる自主研究の活動に、専門的な助言をし、資料を提供し、場を用意することが、生涯学習の時代の図書館の役割となります。



野外テラスで人形劇

図書館の資料を使い論文作成や資格試験の勉強だけでなく、お店のチラシやHPづくり、絵本づくり、合唱の楽譜づくり、アルバム整理、製本など、創作に必要な共用印刷室や工作室、ボランティア室などの機能も揃えます。

### 2. 竹田市民の図書館利用の壁をなくします。

市民に対し、サービスを平等に届けることが図書館の大切な役目です。竹田市は平成24年で41%県内一高齢化が進んでいます。高齢者は各種の読書世論調査をみても、読書率は決して高くありません。ところが、図書館が身近にできた街では、そこに行くと自分の坐る場所や居場所があり、知人たちとおしゃべりを楽しむ、あるいは、一人の時間をゆっくり過ごせる。懐かしい本や好きな音楽に出会える。〈ふれあいの広場〉としての図書館に、高齢者はもちろん図書館を利用しなかった人々が、来館するようになりました。遠くに暮らす市民には、自動車図書館が出向くようにもなりました。中心館では障害のある人にも利用しやすいユニバーサルデザインを心掛けます。



遠い小学校へ出かける自動車図書館

はもちろん図書館を利用しなかった人々が、来館するようになりました。遠くに暮らす市民には、自動車図書館が出向くようにもなりました。中心館では障害のある人にも利用しやすいユニバーサルデザインを心掛けます。

### 4. 新しい時代の図書館サービスをはじめます。

地域振興や現実的な課題の解決に役立つ図書館のサービスです。困ったとき時間がないときに、一番早く問題解決の糸口を見つめられる場所と機関というのが、世界の新しい図書館の目標です。

#### (1) ビジネス支援サービス

各種機関と連携して、地元で働く人々に向け相談会や講習会や情報提供をし、新しい商品開発やサービス形態の研究に役立ちます。

#### (2) 医療健康情報サービス

納得して医療行為を受けるため、セカンドオピニオンの鍵となる専門医療情報や体験記など提供し地域の医療や介護を支援します。

#### (3) 法律情報サービス

専門家に相談する一歩手前で、他者の解決体験記や専門的法律資料などで、包括的な学習や相談の道筋を見極めることができます。

#### (4) 行政支援サービス

行政トップが正しい判断をし、市議会議員が政策を作るために情報提供面で支援します。いつでも行政情報を市民に提供できます。

#### (5) 学び方を学ぶ、調べ方を知る、情報リテラシーを助けます。

様々な問題に取り組む人のため、いかに情報を探し見極め、活かすか、技術の案内が、これからの図書館機能、生涯学習の形です。

### 6. 竹田市民の出会いや憩いのひろばになります。

図書館の出会いの第一は、本とその向こう側にいる著者でしょう。時間と空間をこえて、読み手は自分の感受性と想像力で対話するのは。本を借りなくても、資料世界の中は、いま、ここ、自分に出会い、社会とのつながりを考える、ひとりになれる時間です。第二には、他者との出会いでしょう。個人は、故郷社会と裏表のように一体になり、日々を暮らしています。他者と交流することで、自己の居場所を見つけ故郷竹田にくるまれて生きていること



開架室を広場にしてコンサート

に気づきます。ひとりを確かめ、他者と出会い、故郷との共生を共感する。人がアンテナを磨く為の環境をしつらえ手伝うことも図書館の役目です。図書館という「ひろば」には、場としての力が秘められています。

## 竹田市の図書館システムとして、5つの方策アイデアを考えます。

竹田市全域にとどくサービス網（システム）をつくるため5つの方策をたてました。一般的には基本構想が認知されて「竹田市図書館サービス基本計画」が立案されます。

- 1、竹田市図書館システムのセンターとなる新中心館を整えます。(人・資料・施設)
- 2、全域奉仕の地域計画的な方策として自動車図書館(BM)サービスを運行します。
- 3、進展する学校図書館を更に連携支援し、幼稚園や保育園にも支援を実行します。
- 4、地域拠点地区、久住・直入・荻の公民館図書室を活性化しBM奉仕拠点にします。
- 5、来街者の集まる市街地拠点「まちなかの本棚」など竹田情報の小広場を助けます。



市民が参加する図書館サービス



幼稚園へ出かける自動車図書館



病院や施設にも出かける自動車図書館

### ①BM自動車図書館サービス網の整備

市民の7割、約16800人の方々は、本館と3つの公民館図書室の徒歩利用圏域からは外れて暮らしています。同時に竹田市では、高齢化や公共交通手段の不足という問題を抱えており、図書館への至便なアクセスには課題があります。都市計画に共通の課題と考えられます。

そこで全ての市民に平等に図書館サービスをとどかせるために、図書館が管理運営主体となり、図書館の主要業務として自動車図書館(BM)によるアウトリーチサービスを行います。

自動車図書館(BM:350冊搭載)と配本車(600冊)で、スタッフ2人(交代で司書のべ1人+応援運転手)が公民館・学校・保育園、老人施設、病院、地域中心のショッピングセンターや、郊外の移動販売車の駐車場をまわります。

具体的には、火曜・水曜・木曜・金曜の週4日運行で、一日に4～6ポイント、2週間に一度、4方面7コース、合計28～42サービスポイントをまわる考えです。年間4万冊の貸出利用を目標に、サービスポイントを常に検証して、費用と効果からの事業の妥当性をイメージして運営します。県内で実績のある宇佐市などで、職員は研修が必要になるでしょう。

経費は、車両経費、2名の週4日の人件費、BM資料費などが想定されます。併せて、新中心館整備に含めるべき基地と設備の計画条件(車庫、書庫、装備準備スペース)を構想しておきます。BM用の資料は副本を多く必要にしますので専用の書庫が必要です。できれば、BMと配本車の入る配架車庫、本の装備やコンテナ作業のスペースが必要です。

### ②小・中学校図書館への取り組みと支援方策

こどもが平日に本に出会う環境は学校です。学習支援と読書環境の充実が、学校図書館の使命ですが、これを担当する教師や学校司書と連携し支援します。資料投資にも効果の遅い小学校や中学校の支援方策に学校と取組みます。未就学未就園のこども達への基本的サービスとしても、訪問サービスを行います。資料の貸し出し、催事や研修の支援、直接的出張サービスなども考えます。特に、運営の主体が学校教育である学校図書室の学校司書や先生方の力になる図書館をめざします。多くの学校



学校玄関で店を出す

や幼稚園保育園支援のため同じタイトルの副本の収集強化が図書館の課題です。図書館への一学級招待や、図書館での授業の設備など先進館に学び、新中心図書館整備に含めるべき計画条件をイメージしています。

### ③久住・直入・荻の公民館図書室拠点の整備

合併前の旧3町の中心部には公民館の図書室があります。それぞれ地域拠点として支所や生活利便施設が集中した地区にあり、久住と直入は公民館、荻は商工観光課が管理運営しています。インターネットで図書館システムがつながり、本の検索や貸出、返却や予約はいつでも可能ですが、選任の職員が不在のために、土日閉室の場所もあります。また、資料費が無く、新しい図書や雑誌・新聞の補充、郷土資料の整理が不十分です。合併前はそれぞれに専任担当者



公民館図書室の応援

と資料費がついていたので、県立図書館の団体貸出を受けるなど利用が活発でした。運営主体、人と資料の充実予算化など当面は図書館業務外なので3施設の方針に合わせ支援します。その為の対応人員や専用資料の整備、新施設での計画条件を検討します。

### ④まちなかの本棚、観光情報センターとの連携

観光客や近隣市からのお客さまへ、情報おもてなしサービスに、図書館も支援します。具体的には計画の中文化会館やコミセン、花水月観光情報コーナーに、竹田観光や地域資料とくつろぎ席を用意するなどそれぞれ想定されています。別途、サービスと場が企画され、管理運営と経費が精査され、図書館にできる支援内容が明らかになります。連携レファレンス奉仕が可能です。竹田市図書館網の類縁機関として、図書館から独立の施設群を城下町に点在整備するプランです。



いろいろな施設の開かれた図書室

図書館システムと別の試みが多くあります。近隣公共施設ではきつき生涯学習館の玄関ホール図書コーナー、福岡市開発部門が運営するUDCI アーバンデザインセンター、民間設置運営では船橋まるごと図書館などがあります。

### ⑤サービスシステムの源泉、新中心図書館の整備

図書館の社会的な役割は、生涯学習などの教育政策、技術や情報の取得のための情報政策、コミュニティ再生などまちづくり政策を支えることと言われてきました。文部科学省が告示する「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」では、貸出・予約・データベース・レファレンスの充実と高度化、地域課題解決の支援、住民利用とボランティア活動の促進、学習機会の提供が、具体的に挙げられています。一方で竹田市民は、学びと暮らし



大きな資料世界の中心図書館

・新しい時代の構想に役立ち、情報発信基地として、資料と人との出会いや、故郷への親しみをつくる広場となることを望んでいます。全市のレファレンスや資料の精選と整理MARC化、サービス網全体の企画や運営等の、豊かな生活、活力あるまちづくりの源泉となります。

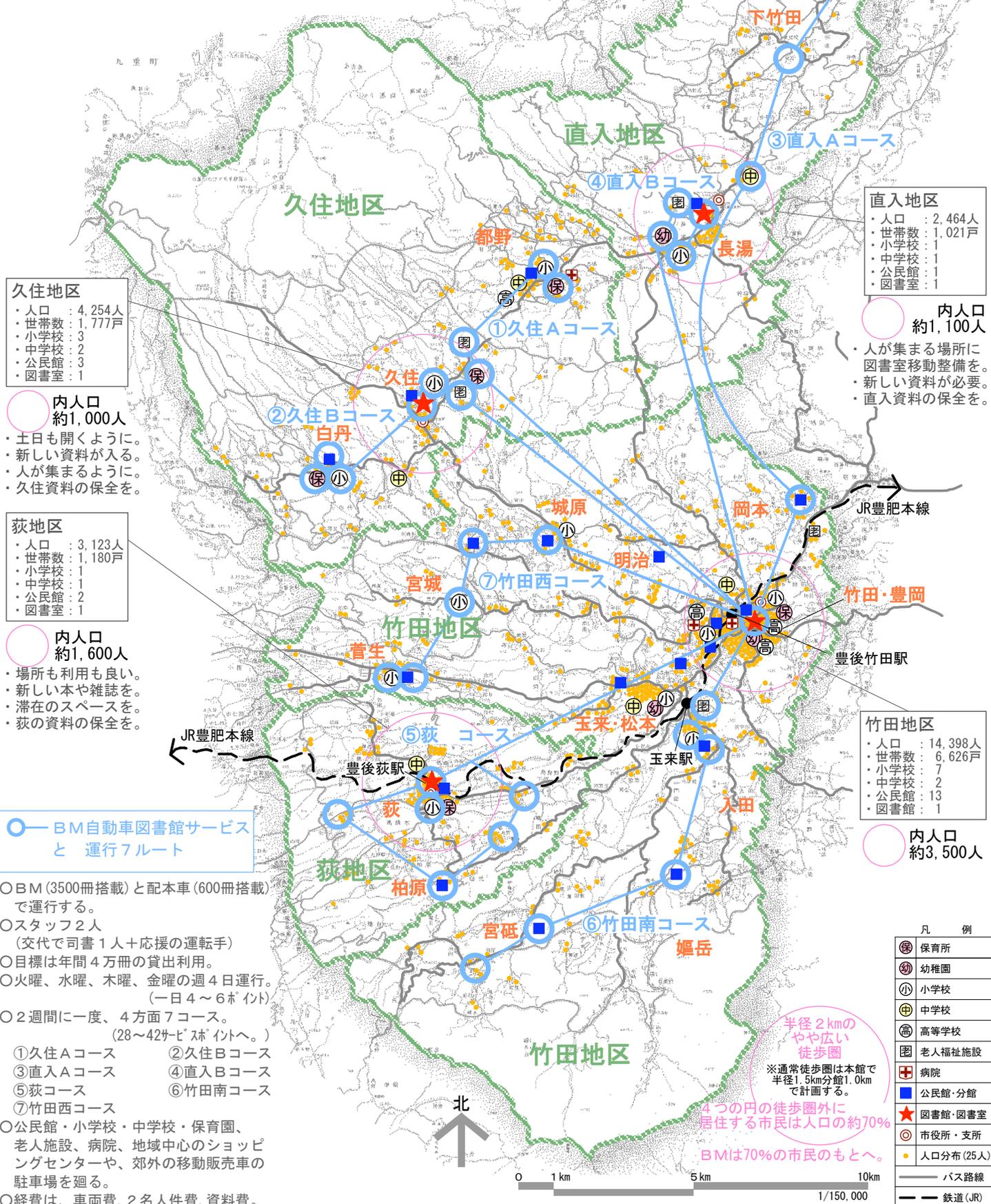
# 竹田市のどこに住んでいる人にも図書館サービスをとどけます。

サービスポイントを検討する福祉系施設・医療系施設

現代の図書館サービスを始める時の3原則は、44年前に法則化されました。  
 ① こどもに対するサービスを重視する。(学校との連携が加わります。)  
 ② 貸出し利用を重視する。(レファレンスや市民活動につながります。)  
 ③ 全域への奉仕を重視する。(図書館サービス網をもつ社会システム)  
 広い竹田市に、中央の図書館から自動車図書館サービスの枝葉がひろがり、  
 点在するサービスポイントでは、上にある三原則が展開されます。それは、  
 図書館の3要素である、ひと・資料・施設によって成長することになります。

区分	福祉				医療				
	保育所	養老ホーム	特養ホーム	老人デイサービスセンター	病院	診療所	歯科	医師数	歯科医師数
竹田市	9	1	3	7	3	28	12	39	13

資料：H16大分県統計年報  
竹田市福祉事務所資料



## 新しい竹田市の中心図書館を構想します。

100年の竹田図書館のこれまでの歴史につながり、大字竹田1980の隣地1979が新しい計画地となります。これまでの代官町通りと、府内町通りにも面します。



### 新図書館計画敷地と配置計画の方針

- ① 新図書館は、新設の中央館と、隣接の哲学者の家(茅野文庫)、ギャラリー集の3施設で構成される。
- ② 中央館は想定規模1550㎡とし、将来的な増築増床の施設要求に応えられる計画をふくむものとする。
- ③ 計画敷地内に30台程度の駐車場と駐輪場を設ける。ギャラリー集に8台、将来も駐車場増設をはかる。
- ④ 3敷地や道路との高低差を克服し一平面構成とし、良好な近隣環境に配慮して、低層で施設計画する。今後、設計をすすめるにあたり、上記の4つの方針が尊重されるように、構想概要を整理しています。

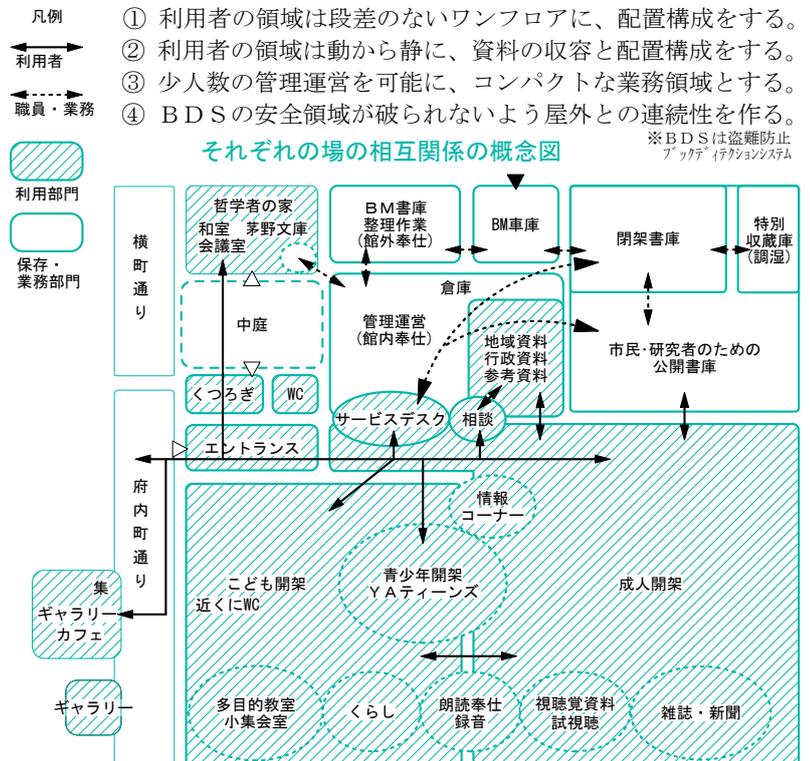
### 新図書館資料計画、資料群の配置方針の素案

- ① 開架部門の資料世界と収容冊数は、8万から12万冊へ。  
(開館時の購入は30000冊を想定)  
○一般開架資料 : 50,000冊 : 現有38748.40%は書庫入  
竹田市であれば将来は開架資料8万冊欲しい。開館時購入27000冊。  
○参考資料 : 5,000冊  
○子ども資料 : 15,000冊 : 現有17500冊。  
○青少年YA資料 : 3,000冊 : 開館時購入3000冊。  
○視聴覚資料 : CD2500/DVD1500/現有資料0タイトル  
○新聞/雑誌 : 主要5+専門5紙/雑誌100タイトル以上  
○地域・行政資料 : 7,000冊 : 将来、地域7000。行政5000。
- ② 自動車図書館サービスの提供資料は、1.5万冊から。  
(開館時の購入は15000冊を想定)
- ③ 閉架部門の資料世界と収容冊数は、4万から10万冊へ。  
○一般書・新聞BN系 : 40,000冊 : 将来増設で10万冊へ  
(開館7年後から年間5000~6000ずつ入庫。現有26226.+15748冊。)  
○竹田資料/古資料系 : 一部特別収蔵庫 : 漢籍7100。和書2350冊。
- ◎ 合計 13.5万冊 → 将来23.5万冊程度へ

### 新図書館建築計画、図書館機能の配置方針

- ① 利用者の領域は段差のないワンフロアに、配置構成をする。
- ② 利用者の領域は動から静に、資料の収容と配置構成をする。
- ③ 少人数の管理運営を可能に、コンパクトな業務領域とする。
- ④ BDSの安全領域が破られないよう屋外との連続性を作る。  
※BDSは盗難防止ブロッカー・イテションシステム

#### それぞれの場の相互関係の概念図



## 新しい図書館の運営のあり方について学びました。

国の「望ましい基準」や県の参考書で、運営と体制を研究しました。

### ○ 中心図書館の設置と運営の基本方針について

- (1) 中心館1館とBM1台で全市域に図書館サービスを普及させ、学校や公民館図書室を支援し、来街客サービスとも連携します。
  - ① 必要な規模の資料を備えて公開レファレンスを行います。
  - ② 公民館図書室など全体の資料の受入・整理・保存を助けます。
  - ③ BMを廻し中心館や公民館の利用が困難な市民に奉仕します。
- (2) 市の図書館ではまかなえない資料要求には、近隣市町や県立、国立国会図書館、その他の機関の協力を得てお応えします。
- (3) 地域・行政資料等を広く収集して、市民の利用に応えます。竹田市や合併前の3町に関する資料や情報も集め記録します。

### ○ 中心館の機能とサービスのかたちについて

- (1) 8～12万冊の図書やその他資料を十分に揃え、不足は他市町や県立図書館の協力を得る窓口になります。竹田市には漢籍や和書、絵図など古資料群があります。安全なかたちで開架室や公開書庫に展示し研究利用に活用できるよう整備します。
- (2) サービス網が円滑に働き、優れたサービスを提供するための業務として、総合目録による資料情報の共有化、業務の集中処理による運営の効率化、学校図書館との連携などをします。
- (3) 視聴覚や電子資料、合併前からの地域資料や行政資料の充実、障害のある市民には対面朗読、録音資料、配本奉仕をします。

### ○ 資料の収集と組織化(構造化)について

- (1) 資料計画の考え方：日本図書館協会の選定図書を基準として、BM奉仕や学校等支援の複本も含めて収集します。資料保存にはルールを定め、市民の利用に応えます。将来は保存機能の広域化、県立図書館の保存機能への期待、竹田市の内では歴史資料館書庫や文書館の整備に期待することとなります。
- (2) 新聞、雑誌、視聴覚資料、電子資料：情報源として新聞雑誌の収集に力を入れます。また、音楽や映像などの資料や機器を備え、誰もが利用できるように環境整備します。
- (3) 中心図書館の資料：同規模館の事例をもとに冊数想定します。

### ○ 図書館の運営組織と職員構成について

図書館サービスの役割とは、専門教育を受け経験を積んだ司書が、資料と人とを結ぶことです。司書は多様な疑問に応えられるよう資料に通じ、資料の選択と組織化に努めます。また、奉仕の対象は広く深いので研鑽とコミュニケーション力も必要です。専門職の比率を高め、すぐれた専門的サービスが市民に行きわたるよう経験と意欲のある司書配置が必要です。館長は図書館政策の専門家として、理念や専門スキルや経営に通じた人材がつかめることが成功する図書館に必要なことから、研鑽や資格取得が望まれます。

### ○ 図書館サービスの目標とする到達指標について

市民に向けて達成したい、竹田市の図書館サービスの実績目標値を仮定します。全国や九州の先進図書館の実績指標と比較して、達成する為の施策のあり方・組み立てを研究して、構想します。5年先の当初目標値、10年先の中期目標値の達成をめざします。

#### ① 市民1人あたりの年間貸出冊数(貸出率)

$$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{人口}} = \frac{-144,000 \rightarrow 192,000(\text{冊})}{24,000(\text{人})} = \rightarrow 6 \rightarrow 8 \text{冊}$$

#### ② 登録率

$$\frac{\text{登録者数}}{\text{人口}} = \frac{\rightarrow 7,200 \rightarrow 9,600(\text{人})}{24,000(\text{人})} = \rightarrow 30 \rightarrow 40\%$$

#### ③ 登録者1人あたりの貸出冊数(実質貸出密度)

$$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{登録者数}} = \frac{-144,000 \rightarrow 192,000(\text{冊})}{\rightarrow 7,200 \rightarrow 9,600(\text{人})} = 20 \text{冊}$$

#### ④ 市民1人あたりの資料費

$$\frac{\text{資料購入費}}{\text{人口}} = \frac{10,000,000(\text{円})}{24,000(\text{人})} = 416.67 \text{円}$$

#### ⑤ 市民1人あたりの蔵書冊数

(生きている本：開館時 開架80000冊・BM15000冊)

$$\frac{\text{蔵書冊数}}{\text{人口}} = \frac{\rightarrow 95,000 \sim 135,000(\text{冊})}{24,000(\text{人})} = 3.96 \sim 5.63 \text{冊}$$

現実 形式

#### ⑥ 蔵書回転率

$$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{蔵書冊数}} = \frac{\rightarrow 144,000(\text{冊})}{\rightarrow 95,000(\text{冊})} = 1.52 \text{回}$$

#### ⑦ 1日あたりの平均貸出者数

$$\frac{\text{貸出者数}}{\text{開館日数}} = \frac{172,800(\text{人})}{292(\text{日})} = 592 \text{人/日}$$

#### ⑧ 1日あたりの平均貸出冊数

$$\frac{\text{貸出冊数}}{\text{開館日数}} = \frac{\rightarrow 144,000(\text{冊})}{292(\text{日})} = 493 \text{冊/日}$$

#### ⑨ 市民1人あたりの図書館運営費

(資料費/光熱費/人件費等)

$$\frac{\text{運営事業費}}{\text{人口}} = \frac{50,000,000(\text{円})}{24,000(\text{人})} = 2083 \text{円/人}$$

## 新しい図書館への市民の声をあつめました。

- 図書館は全ての年齢の人がサービス対象だから、皆が集まれるようにしたい。
- こども開架だけでなく安心してのびのび遊べる囲まれたこども広場がほしい。
- 図書館にはゆとりのスペースが欲しい。多少遠くても、そこに行って楽しくくつろいで、ずっと居たいと感じる場所にしてください。
- 内容の充実した図書館。半日位、落ち着いて調べもののできる部屋がほしい。ようやく時間の生まれた高齢者も、ゆっくり本を読める場所にしてほしい。
- 気軽に立ち寄れて、待ち合わせに使えるような、居心地のよい図書館がよい。
- 図書館は、まず人であることを強調したい。建物と同時に十分な職員体制を。
- 新鮮な資料の数が少ないようです。毎年、新しい資料が増えて魅力が増すように予算をつけて、内容が充実した図書館の建設を望みます。
- ケーブルテレビを利用するなど、図書館ファンを増やすPRをしてください。
- 仕事の後に図書館行けるように、週1、2回でいいので夜間開館してほしい。
- 竹田らしい図書館とは、いま保存されている資料が大切にされ市民に見え、利用できることだと思う。歴史資料館と協力して公開・展示もしてほしい。
- 大切な地域資料には、岡藩以来の古書資料だけでなく、近代の地方新聞の現物保存の継続があり絵図もある。竹田図書館は保存機能も大切にしてください。
- 豊後高田市や津久見市が立派な図書館を建てて、良いサービスがあるそうですが、竹田市もこれにならう経費を使って、建設と運営をしてください。
- いままで図書館に来たことのない人を集める、きっかけづくりをしてほしい。
- 託児サービスをボランティアで入れ、若い母親の息抜きが平日できるとよい。
- 図書館だけでなく、城下町全体の施設や、周辺の環境づくりをしてください。
- 返却ブックポストを各地に置いて便利にしてください。
- 郊外からやってくる市民のために、図書館近くに駐車場をつくってください。敷地内にできなければ徐々に周辺空地を借地して駐車場を増やしてください。
- 敷地内に駐車場を置くことで図書館が苦しいなら外に駐車場を借りて下さい。
- 図書館に、飲食やおしゃべりができるラウンジや、カフェスペースが欲しい。
- 故郷に戻って暮らしてみると、おとなが自由に集まれるたまり場が無かった。図書館の集は、まちづくりなど世代をこえて酒も飲めて語り合う場がよい。
- 自由な集みや展示やおとなのたまり場など、現在の図書館の活用も考えたい。

## 市民アンケートの新図書館建設についての選択回答

### ○ 図書館を利用する主な目的

借受/返却や調べものをする為、館内ですごす為、が主な目的になっています。

### ○ 新しい図書館に充実してほしい設備や機能

読書スペースや市民ラウンジ(飲食可)等へのスペース的充実、図書館へのアクセスに関わる駐車・駐輪スペースの充実、が求められています。

### ○ 新しい図書館に充実してほしいサービス

本・雑誌・CD・DVD等の蔵書の充実が最も求められています。その他では、飲食サービスの提供、活動に関わるもの、が多く求められています。

### ○ 図書館を利用する場合の主な交通手段

来館者の8割の方たちが、交通手段として自動車を利用しています。

### ○ 図書館の休館日に関する希望

休館日への希望は、回答の6～7割が、月曜日を希望しています。

### ○ 図書館の開館・閉館時間に関する希望

開館時間・・・9時からと10時からで、希望が二分しています。

閉館時間・・・18時までと19時までで、希望が二分しています。

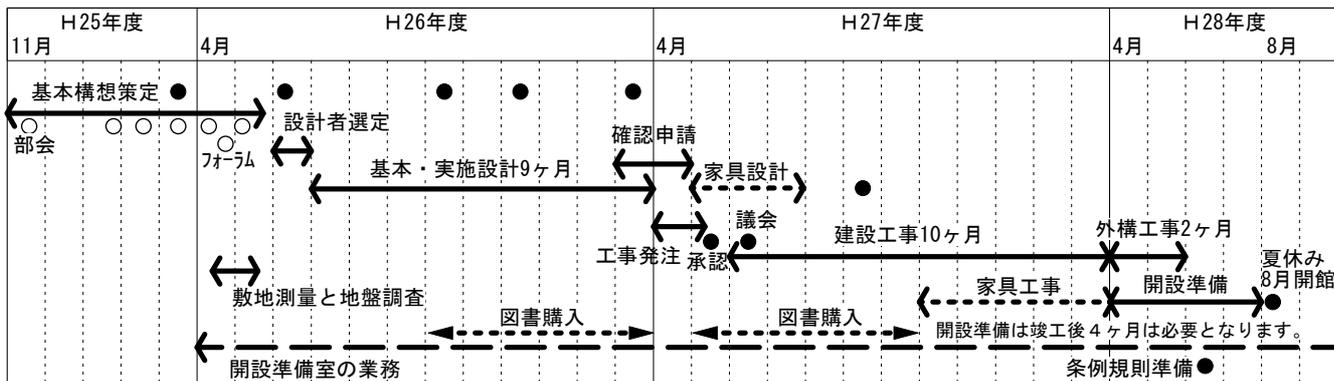
### ○ 新しい図書館に対して最も重要視すること

ほとんどの市民が、快適性、そして経済性、を重要視しています。

(出典：竹田市都市再生まちづくり基本構想 市民アンケート 平成25年9月実施)

※河田/伊万里/諫早平均で2,033円/人、豊後高田市 2153円(5100万円)、津久見市 1960円(4116万円)

開館までのスケジュール案を構想しました。各地の図書館づくりの進み方を参考にしました。



参考資料を整理しました。検討部会で議論の素材とし、今後の開設準備に役立つ資料です。

- 「教育基本法」 文部科学省1947改2006
- 「図書館法」 文部科学省1950
- 「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」 文部科学省2001改2012  
http://www.mext.go.jp/a\_menu/01\_1/08052911/1282451.htm
- 「これからの図書館像-地域を支える情報拠点をめざして-」 文部科学省2006  
http://www.mext.go.jp/b\_menu/houdou/18/04/06032701.htm
- 『豊の国 図書館づくりマニュアル』 大分県教育委員会1996
- 『大分県における図書館ネットワークのための課題』 大分県図書館等ネットワーク研究会1993
- 「たけた活力創造計画2006」 竹田市総合計画2006
- 「新生ビジョン」 竹田市総合計画2011
- 「竹田市計画マスタープラン」 竹田市総合計画2013
- 「竹田市都市再生まちづくり基本構想市民アンケート」 竹田市2013
- 「H16 大分県統計年鑑」 竹田市福祉事務所資料2014
- 『創立九十周年記念誌 図書館90年のあゆみ』 竹田市立図書館1999
- 『創立百周年記念誌 図書館百年のあゆみ』 竹田市立図書館2010
- 「平成24年度竹田市立図書館業務統計表」 竹田市立図書館2012
- 『平成25年度竹田市立図書館要覧』 竹田市立図書館2013
- 「荻公民館だより かけはし」 荻公民館2014
- 「ほんのもりつつしん」第9号 竹田市PTA連合・図書館研究会2001
- 「創ろうみんなの図書館」1・2号 新竹田市立図書館を考える会2012
- 「公共図書館の任務と目標」 日本図書館協会1989改2004
- 『いま、学校図書館を考えるために』塩見昇(講演) 日本図書館協会1994
- 『図書館をめざすもの』竹内さとる 日本図書館協会1997
- 『公立図書館の経営』大澤正雄 日本図書館協会1999
- 『学校における情報活用教育』ジェームスEヘリンガ 日本図書館協会2002
- 『図書館長のしごと』ちばおさむ 日本図書館協会2008
- 『本のある広場』ちばおさむ 教育資料出版会1992
- 『わがまちの学校図書館づくり』 教育資料出版会1998
- 『荻町立図書館の3000日』増田浩次 リブリオ出版1997
- 『これからの図書館』菅原峻 晶文社1993
- 『図書館の明日をひらく』菅原峻 晶文社1999
- 『建築から図書館をみる』植松貞夫 勉誠出版1999
- 『情報基盤としての図書館』根本彰 岩草書房2002
- 『未来をつくる図書館』菅谷明子 勁波新書2003
- 「まちの本棚」 福岡ビジネス創造センター2013
- 『つながる図書館』猪谷千香 ちくま新書2014
- 『日本の図書館統計と名簿2012』 日本図書館協会2013

この基本構想は、市民と行政の協働で議論されてまとめられました。

(敬称略・順不同・参画時の役職名の記載)

●竹田市城下町再生プロジェクト図書館部会

- 図書館部会 (全6回開催)
- 平成25年11月6日 ○平成26年3月17日
- 平成26年1月31日 ○平成26年4月11日
- 平成26年2月27日 ○平成26年5月9日
- 会長：吉岡 雄三 (社会教育委員/図書館協議会委員)
- 副会長：秦 典子 (新竹田市立図書館を考える会代表)
- 委員：井 陽二郎 (学校関係者代表/校長会会長)
- 大塚 英子 (元保育士)
- 伊藤 誠至 (公民館嘱託職員)
- 吉野 聖子 (図書館ボランティア)
- 中臣 一 (青年世代代表/竹工芸家)
- 松本 優 (子育て世代代表)
- 佐藤 徹 (まちづくりセンターコーディネーター/前商工会議所青年部会会長)
- 事務局：吉野 英勝 (教育長)
- 甲斐 健三 (前図書館長) 後藤 芳彦 (図書館長)
- 上野 寿雄 (前図書館参事)
- 麻生 裕美 (図書館司書)
- 渡辺 一宏 (まちづくりセンター長/建設課/市長公室)
- 寺田大塚小林計画同人

図書館部会の委員は、竹田市の市民活動や社会教育や学校教育で活動されている方に集まっていたいただきました。新図書館の建設だけでなく竹田市全体の図書館サービスの将来像が、基本構想として議論されました。6回の議事テーマや研究資料や議事録は、基本構想本編の巻末に、資料編としてまとめられ、施策や設計資料に供するものです。



●新図書館建設市民フォーラム

平成26年4月25日夕方から、総合社会福祉センターでフォーラムが開かれ、111人の参加がありました。基本構想づくりの進み方とその内容についてご報告し、会場から、学校図書館の充実・竹田郷土資料の利用し易さの改善・若い世代の利用からの要望など意見をいただきました。またアンケートでは意見も集められました。同日、市のホームページでは基本構想が情報開示され、より広い市民にパブリックコメントが募集されました。



●行政ヒアリング

- 市長 首藤 勝次
- 副市長 野田 良輔
- 竹田市総合まちづくりセンター  
事務局長：渡辺 一宏(市長公室補佐/建設課長補佐)
- 竹田市環境衛生課 生活排水係ご担当
- 文化財課・竹田市歴史資料館  
課長補佐：佐伯 治 参事：城戸 誠  
主査：入江 康太

- 久住公民館  
館長：本郷 純司 主査：柚木 玲奈
- 直入公民館  
館長：後藤 篤美 職員：山田 ひとみ
- 荻図書館  
職員：高橋 優子
- 南部小学校図書館  
学校司書：三宮 智恵美
- 城原小学校図書館  
(学校司書：渡辺 裕子)

●市民グループヒアリング

○新竹田市立図書館を考える会

- ヒアリング・勉強会 参加者
- 平成26年2月1日, 2月27日
- 赤座 昭義(代表) 秦 直子(副代表)
- 古井 久和 足達 計司
- 大塚 広 秦 典子
- 麻生 裕美 堀 智美

竹田市新図書館建設基本構想策定事務局

本構想は竹田市城下町再生プロジェクト図書館部会で検討されました。竹田市全体の図書館サービスの状況を確認し、日本の図書館政策の指針と先進例に学び、竹田市全体の図書館サービスのあり方と、センターとなる新中心図書館について構想しました。並行して市民グループや行政関連部門にヒアリングし、広く呼びかけてフォーラムも開きご議論をして頂きました。事務局は教育委員会図書館が中心で務めました。記して謝意を表します。平成26年5月出版

- 竹田市教育委員会  
教育長：吉野 英勝  
総務課長：甲斐 健三 総務課：阿南 裕彦
- 竹田市立図書館  
館長：甲斐 健三(前任) 後藤 芳彦(新任)  
参事：上野 寿雄(前任)  
司書：麻生 裕美 児玉 真里子  
磯部 綾佳 熊谷 圭子(前任)  
大塚 敏江(前任) 大木 恵美(新任)  
後藤 由佳(新任)  
職員：山田 裕美(前任)

- 竹田市総合まちづくりセンター  
センター長：渡辺 一宏 (企画情報課参事)  
佐田 圭司
- 企画情報課 井出 剛
- コンサルタント  
株式会社 寺田大塚小林計画同人  
寺田 芳朗 小林 春奈 松村 和雄  
中野 寛之 寺田 祥子  
(助言)  
山崎 周作 (元津津町図書館 副館長/文化振興室長)  
(元荻町立図書館 係長/開設準備担当)